

特 集

平成13年度 学校保健統計調査の結果について

～ 変化していく子どものからだ ～

学校保健統計調査は、児童、生徒及び幼児の発育状態と健康状態を明らかにし、学校保健行政の基礎資料を得ることを目的に毎年実施している調査です。

今回は、この調査結果をもとに子ども達の体が25年前（1976年）とどう変化したか比較してみました。

1 **たくましくなった？石川の子ども**

調査結果によると、各年齢の子ども体格、そして、25年前の子どもの体格を比較すると表1のようになっています。これを見ると、幼稚園児の座高を除いて、現代っ子の体格の方が上回っているのがわかります。

表2では、石川の子どもの体格は全国平均と比べてもおおむね上回っていることがわかります。

その中でも17歳の女子の身長が全国平均を1cm上回り159.0cmと全国1位、男子も全国平均を0.8cm上回って171.7cmと全国

5位になっています。ちなみに男子平均身長全国1位は、新潟県の172.2cmでした。

しかし、文部科学省の「文部科学統計要覧」によると近年全国的に子どもの運動能力・体力が低下しているという調査結果も出ています。

表1 25年前との体格の比較

(単位：cm、kg)

			身 長		体 重		座 高	
			2001年	25年前との差	2001年	25年前との差	2001年	25年前との差
男 子	幼 稚 園	5 歳	111.2	1.0	19.0	0.3	61.8	0.1
	小 学 校	7	122.6	1.4	24.5	1.4	67.8	0.5
		9	133.7	2.3	31.3	2.8	73.0	1.1
		11	146.0	2.9	38.9	2.7	78.2	1.5
	中 学 校	13	<u>161.9</u>	4.6	<u>51.3</u>	4.9	<u>86.1</u>	2.6
	高 等 学 校	15	169.5	2.8	61.1	4.6	<u>90.8</u>	1.7
17		171.7	2.1	<u>64.4</u>	4.1	92.0	1.3	
女 子	幼 稚 園	5 歳	109.8	0.1	18.5	0.0	61.1	0.6
	小 学 校	7	121.8	1.3	23.8	1.1	67.5	0.6
		9	134.1	2.4	31.2	2.7	73.4	1.7
		11	147.3	2.0	40.3	2.7	79.8	1.4
	中 学 校	13	155.9	1.7	48.6	2.0	84.4	1.1
	高 等 学 校	15	158.1	1.6	52.7	1.0	85.3	0.5
17		<u>159.0</u>	1.9	53.5	0.2	85.8	0.7	

(注) 下線の部分は調査開始以来最高値。

表2 全国平均との体格の比較

(単位：cm、kg)

		11歳 (小学6年生)			14歳 (中学3年生)			17歳 (高校3年生)		
		石川 県	全国平均	差	石川 県	全国平均	差	石川 県	全国平均	差
男 子	身 長	146.0	145.3	0.7	166.1	165.5	0.6	171.7	170.9	0.8
	体 重	38.9	39.5	0.6	55.3	55.5	0.2	64.4	62.8	1.6
	座 高	78.2	77.9	0.3	88.5	88.1	0.4	92.0	91.5	0.5
女 子	身 長	147.3	147.1	0.2	157.8	156.8	1.0	159.0	158.0	1.0
	体 重	40.3	40.1	0.2	51.5	50.9	0.6	53.5	53.2	0.3
	座 高	79.8	79.5	0.3	85.2	84.8	0.4	85.8	85.4	0.4

2 変化した成長の仕方

現在と25年前を比較すると、成長の仕方も変化してきています。図1、2では現在の17歳の各年齢の時の成長量から、25年前の17歳の各年齢の時の成長量を引いたもので比較してみました。

図1と図2によると、男女ともに現在の17歳は、11歳になるまでの成長量が25年前より増えており、逆に、それ以降は減少していることがわかります。つまり、意外なことに12歳以降だけをみれば、25年前の方がむしろ現在より成長量が多いことがわかります。

したがって、表1でわかるように5歳の時の体格は今も25年前もさほど変わってないことから、現在の子どもの方が大きくなるのは、小学生の時により成長するためようです。

図1 25年前との年間成長量の差 (17歳男子)

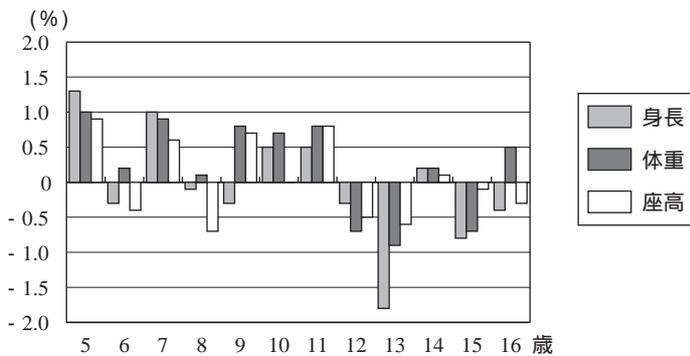
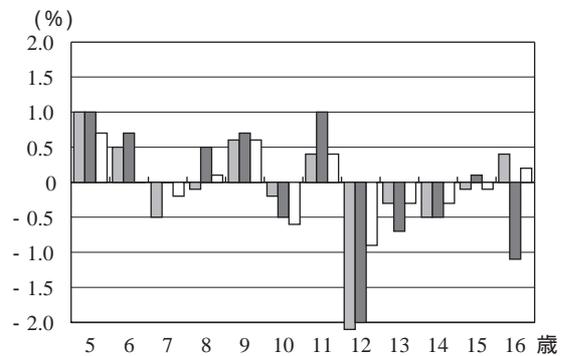


図2 25年前との年間成長量の差 (17歳女子)



- (注) 1. 0の地点は、現在と25年前の成長量が同じであることを示す。
- 2. 年間成長量については、P24の「統計豆辞典」を御参照下さい。

3 増加している疾病とは

現在、各年代の子どもで最も多い疾病は、う歯(虫歯)です。25年前と比べると、減少してきてはいるものの依然として大半の子どもに、う歯がみられます。

表3を見ると幼稚園を除き、視力の低下、肥満傾向、ぜん息は、この25年で増加してきており、その傾向は小学生より中学生、中学生より高校生と年齢が上がるにつれてはっきりしてきます。

特に、ぜん息は、25年前は幼稚園から年齢が上がるにつれて被患率が下がり、高等学校では非常に低くなっていましたが、現在では小学校で一度上昇し、その後、減少はしますが高等学校になっても依然としてある程度の被患率がみられます。

表3 年代別疾病・異常被患率の比較

(単位: %)

		幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
		1976年	2001年	1976年	2001年	1976年	2001年	1976年	2001年
男 子	う歯(虫歯)	90.56	65.29	94.59	82.03	94.96	80.74	96.53	86.09
	視力1.0未満	...	12.49	13.53	25.27	29.30	52.54	56.74	73.65
	肥満傾向	0.64	0.18	1.84	1.93	0.93	1.39	0.20	3.03
	ぜん息	0.46	0.25	0.45	2.03	0.38	1.65	0.05	1.35
女 子	う歯(虫歯)	91.97	67.79	94.97	80.31	97.25	83.39	98.72	90.71
	視力1.0未満	...	18.79	17.19	29.08	33.47	58.88	56.09	76.93
	肥満傾向	0.54	0.39	1.66	1.35	0.99	1.26	0.46	1.77
	ぜん息	0.45	0.32	0.23	1.18	0.18	1.07	0.06	0.72

(注) 幼稚園の1976年視力1.0未満については統計資料なし。